物産雑説

果物類六
漿果類
乾果類

十五

A 00
5764

果物六漿果乾果

東京大学総合図書館

大年十月十二日
接スアマサ台ヘ子ノ大サ差アリ是之
七十五匁
定ノ分ヘ十粒六十匁
云汲ノ分十粒五十匁
一五十匁

全量七十五匁アリ
外皮黄白色滑澤
内部共白ク子粒鞭テ無色液ヲ以テ包マレ水晶ノ色ヽ持ス
味甘美ニシテ甘石榴ニ同シ至テ上品ナリ

No.16
A00
5764
東京帝國大學圖書之印
B 45224
男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男男爵旧蔵書
昭和七年
東京大学総合図書館

シロザクロ　水晶石榴

明治卅四年十月六日

本農會ノ第廿二回

農産品評會出品

東京府　金田進

全量七十五匁アリ

外皮黄白色　滑澤

内部ハ共白ク子粒總テ無色　液ヲ以テ包マル　水晶ノ名ヲ持ス

味甘美ニシテ　甘石榴ニ同シ　至テ上品ナリ

No. 16

A00
5764

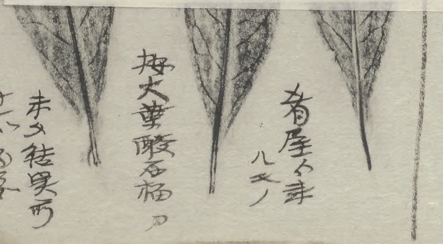
東京帝國大學圖書

B 45224

男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男男爵旧蔵書
昭和七年

東京大学総合図書館

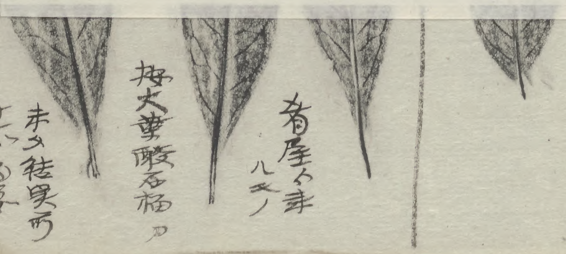
今井筆御申より　六二年十二月十七日
此の如き先年　澄明　今ノ此異樹ヲ
取り出ス　石榴ノ苗ヲ得タリ　挿テ木ト成シ候
ニ結実　昨年ハ取リ申ニテ
今年ニ至リ　壱ツ四五　石榴法記
又二　三子ハ二個ノ結実ス　大なる



子粒大ニテ白ク甘石榴ニ同し
十粒　一匁
十粒種子　二分

東京大学総合図書館

今井筆園へ　十二年十一月十七日
以書付申上候　然ハ会田比叡様
御預之石榴ノ苗ヲ植置　拙者宅
ニ植付候　昨年ハ咲不申ニ候
今年ニ而初テ四ツ花咲　石ニ結込
候ニ　ニツ也　其個ノ結実ニ　大ナル
石ヲ千ヲ也　因ヲ以テ
毒色　美麗　味甘美ニ而　右ら
先般ノ御礼状等ヲ差上申候
十一月十七日　田井几



子粒大ニシテ白色甘石榴ニ同シ
十粒　一匁
十粒種子　二分

東京大学総合図書館

子粒大ニテ自卵甘石榴ニ同シ
十粒 一匁
十粒種子 二分

毒色美麗時期…
生後ノ圓熟…
江ー…
田井氏
[illegible]

東…
石榴 五品
戊午十一月五日
平井男白揭

十五

鹿児島

都城 柘榴

都城上町植原善左衛門ノ作ル子

明治六年十月一日朝

甘石榴

稍黄色トナリシモノ

白石榴

葉色淡シ

右ハ最大之葉ヲ撰テ搨之スルモノ

東京大学総合図書館

鹿児島

都城 柘榴

都城上町植原善左衛門ノ作ル子

明治六年十月一日朝

甘石榴

稍黄色トナリシモノ

白石榴

葉色淡シ

右ハ最大之葉ヲ撰ミテ搨之スモノ

東京大学総合図書館

華翰拝披ロ尋ニ付ニテハ
承知
五月頃ニ貯ヘ置ク葡萄七
砂囲ニ而貯存如何之事
北清ニ而葡萄ニ限り候事

外皮殷紅ニシテ美麗 自ラ破裂シテ内部ノ小子粒
ヲ現ハシソノ味極メテ甘酸美味最甘多ク酸少キモノ
東京ノ甘石榴ト云フモノハ此品ト同じなるへし

此菓物者ニ貯ヘ有之曾而
其方法を探索致候得共空
氣之乾燥ナラシメ生し別ニ是
与申特別之法とハ見ヘ無之候独
公使フオンブランド氏ト面會本国政
府之官ニ嘱リ貯法を研究
仕候矣張某同様之事ニ有趣
一 昨年清公使徐承祖氏へ貴
国北清産之葡萄樹現ニ
小生領縣村之別莊ニ種ヘ有
之候共猶折葉ニ至り同様ニ而

清国葡萄ノ件

田

未分拮レカリ居ル入用ニ候
何時ニテモ参上可申
九月廿六日　武揚
田中先兄様

東京大学総合図書館

米穀枯レカヽリ候ニ付入用品

粧

武州＿＿県＿＿郡＿＿村真蔵地＿＿馬居合

田中芳男殿　榎本武揚

明治六年八月廿五日
一大ツサ　四ツ八分
一小ツサ　二十一本
一玉ツサ百　九十本
右者九月十五日落
右者…黒蘭菊掛
目方ちう

清国蘭菊之件

閏元之年八月採取

葡萄度量

黒 六貫目

東
白 一貫目

西
白 一貫五百目

一 費り九月十五日採人

大つけ 四十八ケ

小つけ 二十ケ

塩つけ 百ケ五十許

大年八月九日
黒葡萄採
目方壱〆

挿入資料　東京大学総合図書館

人形町通
豊年家

挿入資料 東京大学総合図書館

閲

清国葡萄ノ件

[illegible]東京[illegible]

田中芳男殿

拝復

榎本武揚

半分枯レカヽリ居ル分入用[illegible]

[illegible]粒

福羽逸人著　明治廿年三月出版　但是迄上一巻刷行アリ
甲州葡萄栽培法
発兌　東京京橋区南伝馬町二丁目十三番地
書肆　穴山篤太郎
同　出良二輯　明治八年一月発兌
葡萄樹栽培新方　全二冊
発兌書肆　東京京橋区南伝馬町二丁目　大和屋源助

明

度支廃止
十一月ヨリ月俸壹ヶ月分御渡與相成
右者格別勉励奉職候ニ付慰労
田中宗兵衛
同
古井彦謙
月俸拾五円重

甲州葡萄ノ異名
（コンナンサセラレ候
ニーヨンカラフ人ニ候
スウヰートワートル　イチヤウ

Grover's My Vineyard at Lakeview, New York 1.75 一円七十五銭

Husman's American grape growing and Wine Making. New York 2.50 二円五十銭

Mohr's The grape Vine New York 1.80 一円八十銭

Rhin Open air grape culture New-York 1.75 一円七十五銭

Strong Culture of the grape Boston 2.75 二円七十五銭

右洋書ハ左記ノ場所ニテ發賣ス

東京日本橋区通三丁目 丸善商社洋書店

YANAGIYA

夏季 上等葡萄酒 非常低價大賣

葡萄酒ノ原價ハ舶載品トテモ元ハ安直ナレモ販賣者ノ外飾其他種々ノ手數ヲ經テ本邦ノ食卓ニ上ルマテニハ幾倍ノ高價トナル是レ需要者ニ在リ誠ニ御迷惑ノ次第ナリ弊舗夙ニ玆ニ心付キ豫テ佛郎西ボウドウ府ノ製造元ニ特約シテ廉價ニ購得シタル**善良醇厚ノ赤葡萄酒**澤山到着シタルニ付御便宜ノ爲メ全ク外飾ヲ去リ壜代ヲ除キ府下限リ**左ノ非常低價**ヲ以テ貴顯紳士夏季ノ需用ニ應セントス其純粹ノ生葡萄酒タルコハ横濱**佛國領事ノ證明**ト全**製造元代理人ノ保證**アルノミナラス彼ノ加水增量等ノ惡習ヲ脱シテ**眞成ノ良好品**ヲ購客ニ呈スルヲ以テ**弊舗大販賣ノ目的**トスレハ實地御試用ノ上永ク愛顧ヲ玉ヘ

壹本 廿四 錢

三

距る十二里（マイル）ある園ハ貴府の優長（ヤクシャ）「エドベシト、ホイレスト」

三

貴府博覧會槩況

大森惟中記述

葡萄園養方

園藝の法たる能く人為を以て化工に代（副）其花を發らし實を結ばしむる皆非時の候に於てもす就中葡萄を養ふの方最も巧にして宜きを得たりとなす園藝館の出品者貴府の人「ドリール」氏一日我事務官を誘ふて數所の園莊を訪ふ田中事務官等數輩之に趨く先つ「ホルムスブルク」地ノ名葡萄園に造（イタ）（至）る貴府を距る十二里（マイル）なり園は貴府の優長（ヤクシヤ）「エドベント、ホイレスト」

上品　大壜壹打　貳円八十銭　壹〔…〕
上々品　仝　三円五十銭　仝　三十銭
特別品　仝　五円以上　仝　五十銭以上
（上品モ原價四十五枚以上ニシテ特別品ハ九十枚内外）
右半打以上ハ御注文次第遠近ニ拘ラス配達シ端書ニテ御注文ノ節ハ配達ノ際端書返上尤其際壜代四錢ツヽ預リ御返却ノ節返金仕候又器物御持參ノ節ハ半打二升四合ノ割ニ多少ヲ問ハス升賣モ仕候

發賣元洋酒商　柳家佐和　敬白
小石川區柳町廿四番地

明治廿一年七月

貴紳華客御中

追テ配達迅速ノ爲メ左ノ各店ニテモ取次仕候尤升賣ノ儀ハ品柄取締ノ爲メ當分發賣元ニ限リ受申候

取次所

洋酒店　麹町區三番町六十七番地　清泉堂
鐘請店　京橋區尾張町新地一番地　青陽堂
洋酒店　麻布區飯倉町三丁目廿七番地　攝生軒支店

Grower's My Vineyard at Lakeview, New York 1.75
一円七十五銭

東京大学総合図書館

氏の所有とす「ホイレスト」氏優名最も高く屡々
其技を欧州の各都に演せり三年前に死去し
遂に園を以て同坊の俳人(ヤクシヤ)退老(インキヨ)の地となす蓋し
欧米の人身死して嗣子なけれは遺産を近親
故友に領與し其財に富む者は往々遺命して
學校書籍館救育院等を創建し衆人の公用に
供し以て身後の名を謀れり「ホイレスト」氏も亦或は
之に倣ふ者歟方今優者(ヤクシヤ)猶ほ老て技を辞せさ
る者なし故に某氏権に園事を處し園利を
收めり其法玻璃室を作り葡萄を其中に植
養ふ玻璃室は一畳煉瓦を築きて壁となし
壁に依て玻璃房を構ふ椽(タルキ)木斜めに低まて地
に向ふ地を距る三四尺なる可し落溝を具へて
雨水の房内に入るを防く落下に玻璃の窓を列
ね開扇をへうしむ屋蓋又重錘(オモリ)を吊(ツリサ)下けて啓
閉の用に供す猶ほ亮窗(ヒキマド)の索に因て外戸を放
鎖するか如し蓋ふ所の玻璃大抵零片(ハレタモノ)を接
合して戸板と成す方形一なるは大なるも径り
尺を重ぬる者なし其質素にして虚費なく着
くるも尚もへきなり窓に沿ふて葡萄樹を栽ゆ毎

株の間各三尺を隔ツ屋の裏面鉄線を敷
所に横架し然を以て樹身を繋ぎ屋に循ふ
て延長せしむ壁に沿ふの一邊ハ穉樹を列栽
せ且其樹苗を作るハ挿枝の方を用う十
一二月の候枝節の発芽をへたる部を上にして
左右より斜めに剪断し船底の状の如くし
長さ一寸餘横に盆中に挿み玻璃房に入る
徑六寸の盆ハ枝を挿むへし往年ハ枝の両節
を量りて剪截し縦に之を挿む我邦挿
樹の法の如くし其上芽幹を生し下芽
根を生せしめり然れとも枝長きを以て屡々
敗腐を招けり爾後前法を講究し今槖
して取用せり盆に盛るに河砂を以てし亦其
朽敗を防く為めなり六週間にして鬚根出
きハ之を土に移し三四年に至て始めて
實る毎年六枝節を存して樹幹を切断
し枝條も亦宜きを量りて其新萌を批去し
務めて蔓延せさらしむ房内樹を離るゝ二尺
餘りに鉄管の徑五六寸なる者両箇を並置
し管の一端鉄の圓筩を墜［建］て水を容るゝの

燻テ忌ム　ハ火ヲ燎シヲ発セル　脚ト雖モ炳テノツナニ

口となし両管並に箱内に相通せ房下に地
室を設け鉄爐を具ふ別管地中に伏入して
爐門の上下を繞る並に験水の孔あり常に
釘塞を験するに臨んで螺釘を抽けハ水出
流爐畔石炭を貯ふるの地あり上に炭を容る
の口を設く爐を焚けハ水熱して両管を週
り循環して息まず房内常に七十度の熱
を保たしむ五閲月にして火を止む両管の
上鉄溝を数所に鋳附し水を其裏に盛
り熱するに随て水氣を蒸發せしむ花時に
ハ一日に両三次に及ふ蓋し花を着け實
を結ふの際尤も雨の傷害を嫌ふを以て
特に此装置をなして雨露の養に代るなり
花落ち子を結へハ朝暮に噴箭（ジョウロ）を以て灌
水せる日の出るの前と日入るの後とに於てし
色熟するに至て止む又務めて下窓を開く
を要せす其子粒の極めて繁きハ短刃長
肢の鋏刀を以て靴顆を剪除す凡そ葡萄の
種卅四あり子の形一ならす大小扁楕其状を
異にし或ハ紫綾を垂るゝか如きあり或ハ緑毦（フサ）

廻議用 内務省

を結ぶに似たるあり採て之を食ふに味甚だ甜美なり其六種を最良として並に其苗を購ふを約せり曰く「ブラッキ、ハンボーク」曰く「マスカト、ハンボーク」曰く「マスカト、アレキサンドリヤ」緑色にして肉多く味む甜し乾收に宜し曰く「ボウドマスカト」曰く「ボクランド、スーイト、ワータア」曰く「ホワイト、フロンフヰナン」あり又大巴里斯（グレートパリ）「タイン」と稱する種は最良に非ずといへとも子顆纍々として極めて長く人之を搘へハ垂れて地に委ぬ各種に因て房を分つ其最も早きハ前年の十一月始めて房を温ため翌年の四月に實を收む其最も晩きハ四月の末より煦育して十一月に至て摘采す期を追ひ候を計り遞次に收採す其間虚月なし其蚌害を除くハ烟草を以て燻す獨り「スリッパ」蟲ハ（始メ黄白色ノ毛虫ニシテ後ニ白蛾ニ變ス）硫黄粉を嗉吹（フキカクル）して之を防く此蟲や素と樹葉に生ずるに非ず空氣に随て外より飛来し遂に蕃殖をなす玻璃房の製に因て大に此害を来たせり房屋人形をなし玻璃の蓋戸両つありて開くを得るの室ハ空氣の

入ミ流通せる多きを以て殊に此蟲害の甚しきを見る故に大房を造らんとせハ煉瓦の壁を中にし左右を分ちて両房となすものを宜しとす肥料ハ牛屎の一年を経たる者を用ゐ之に土を和し地を穿ち六寸許にして其中に既塗を設園の葡萄樹凡そ四百株に過ぎたり玻璃房六所あり而して之を治する園丁二人のミ其十一年を経るの樹ハ一株にして七十の果を結へり一斤率ね壹弗五十銭若くハ二弗に販売す果の大なるハ一連顆の重さ殆んと一斤に居れり今此を以て緊算するに一株五十果を獲るとし一果壹弗五十銭に値すれハ四百株にして二萬弗を得へし然して其隔年に実を結ふを以て折半して壹万五千弗是を一歳の収額とす園丁二人一日に五弗を給し一年に一千八百廿五弗石炭肥料等の費を計り假に三千弗

六爐ノ炭量一週ニ六噸ヲ焼消スルトキ五ヶ月間一百二十二噸一噸ノ時價六弗七十五銭

全價八百四十弗ナリ肥料其他ノ費ヲ償却ス

とし之を償却すれは仍ほ一萬弗以上

○益（アルジン）作優數輩生食ましむ其
利ある豈大ならんや園長の語を聞くに曰く
葡樹の壽廿五年を保つへし英國の某地
の如きは現に二百年を経る者ありと
夫れ葡萄は以て美酒を醸すへく以て
殽（サ）薦（カナ）ニ供すへく又乾貯して久きを保
つへし夫（プ）の佛朗西と葡萄牙の如きは皆
此を以て其國家を富ませり我日本従
来葡萄を産するの地なり培養製造
若し宜きを得て益々其産を盛んにせは
他日の利する所必す尠少ならさる者あ
らん
次に「テコネル」地名に至り貴人ボードイル氏の園
を観る氏の別荘に係る頗る曠敞なり
庭園潔清径路直正にして両辺行樹
を列ね些の塵芥なし之を望むに際涯
を見す又フランクホル地名の一園に抵る其地は
十ユークル我三十二町四反八畝廿二年前畦畝なり園主
「ケネリー」氏斯に移りしより多く花卉草
木を栽へ大に園景を粧飾せり薔薇英名ラーズ

千五百株あり其種一百四十毎株小木を地に立て木邊を刻して數を記し刻痕の多少に依て品種を定む十點を最上とし以下遞に差等あり我東京人の称とせる者往々八點以上の標記を附せり亦好尚の處に隨て相異あるを知るへし

一樹あり主人其名を識らす之を田中事務官に質す田中氏爲めに之を解説す其樹羅典「クロトン」と喚ふ我國「せゐす」此類あり主人喜んて謝す尋て「テコネー」に至り汽車に駕し貴府に還る此日同行の事務官大森惟中久保弘道及ひ審査官池田謙造等なり

廻議用　内務省

謹而相達候追啓上申候
ブラギリ鐵砲之儀ハ東京
ニ於テ発賣有之候上申上候
キヘ書類差遣可相成候事

東京霊岸島南新川
二丁目 [illegible]
同 霊岸島 [illegible]
中井宇三郎 [illegible]

右者 [illegible]

[illegible]

列議[illegible]

内務[illegible]

列議官　内務省

発売可仕候處代價左之通
上等代金　但紙ハ和紙ニ而
スヰートワイン
ブランデー
ジントン酒
赤葡萄酒
白葡萄酒

右之外種々之売出候九三銭
内国勧業博覧会ニ出品致し
就者右品ハ既ニ去五月出願ニ而御免
ノ特許ヲ得申候

一葡萄酒　拾三本入箱　壱円
儀御用被下候ハヽ御取次仕候
右御願申上候　以上

田中芳男様

栄貞ヲ仕婦ヘ迄付自出来
上申仕候 花勢殺ハ乗候て
尚ニ存候も以書翰之通大之来候
付可然中上候

右之者先九大夫手金ヲ以上申候
不辞有之此段承知ニ而御印
是迄相成候 是無承知
仕候自可遂之相成候由方へ
通承知候自御
其外 候 参候
御用ニ而 候 相成候

葉背茶色細毛アリ

東京本郷区
金助町七拾八番地
田中芳男様
ナゴヤヨリ

郵便はかき

此表面ニハ宿所姓名を限り認むへし

尾張國知多郡小鈴谷村
神谷伊兵衛

東京大学総合図書館

伊豫　ケサニカリツル

葉背茶色細毛アリ

東京本郷区
金助町七拾六番地
田中芳男様
執事御中

葡萄苗

明治廿三年七月十六日

武蔵東京 廿三年七月十五日

神谷伊兵衛

東京大学総合図書館

ケサンカクヅル仮称

此品ハ明治十七年五月伊豫上浮穴郡七島村ノ山ニテ採リシ者ニテ又土佐吾川郷ニ於テモ見ル花葉ノ状三角ヅルニ似テ褐色毛アリ因テ仮ニ「ケサンカクヅル」ノ名ヲ附シ去明治廿年小松宮殿下ノ洋行ニ際シ同宮ニ托シテ之ヲ魯國ノ植物学士マキシモウヰツ氏ニ質セシニ Vitis flexuosa, Th. Var. Lonta, maxe. ノ学名ヲ示サレタリ爰ニ於テ愈「サンカクヅル」変種ナルヿヲ確定ス当時同行ノ田中芳男君ノ筆記及中島氏ノ寫生図アリ併セテ之ヲ爰ニ出ス

明治廿一年十月十四日

藤野寄命記

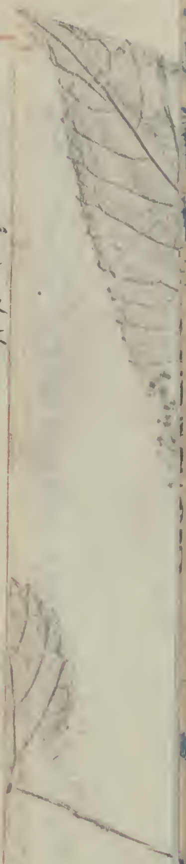
青森産

サナツラブドウ

十七年四月決地ヨリ来ル五株ヲ分チ一ヲ自園ニ傳ヘ博物局ヘ受持物局ノ方生活シ自園ノ分枯ヘ

此葉ハ十一月ニ至リ黄ヒテ然ニ紅葉ニ交ヘ又ノ

河原田
會津
サナツラ
トヨフ又ノ土ト
呉ヘリ云又
所ヨリ
シャナツラ
トモ云ヘリ
中秋二月ニ供シ
西洋アドと
サナツラ等アリ



青森縣 平井臣退ヨリ 十七年四月廿ノ状ニ曰 南地方山野自
生ノ葡萄ニ三種アリ 一種山葡萄又大葡萄ト称ス 葉ノ裏面
ニ白毛アリ房大ニシテ粒大圓黒色 味酸最強シ 一種野葡萄
又小葡萄ト称ス 其葉ノ裏面白色ナリ房小ニシテ粒小圓黒色味ニ
酸気最強シ 一種 サナツラ葡萄ト称ス 粒房共中等ニシテ黒色
葉ノ裏面ニ毛ナシ 淡紫色或ハ緑色ニ至テ小葉ナリ稍甘味ニシテ酸気少ナシ

右書面 初ノ品ハ ヤマブドウ 次ノ品ハ エビヅル 第三ノ品ハ即
此サナツラブドウ ニシテ サンカクヅル 即 ガネブ 葛蔓ノ種類ノ者
ナリ 河原田 琉球 カネブ トモ

十七年十月十九日夜 田中芳男記

ムベ之説

十五年三月二十九日 田中芳男

野木瓜ハ園内ニ植ヘテ其葉ノ四季美緑ナルト實ヲ結バセ賞翫スル等ニヨリ 常ハ花戸ノ取扱フモノトハナレリ 原来此品ハ通草アケビノ属ニシテ常緑且大ナルモノナルヲ以テ又トキハアケビノ名アリ 産地ハ暖国ニテ伊勢紀伊等ニアリ 然レ𪜈多数ニハアラズ 此頃鹿児島縣ヨリ出京セシ 樺本彦ノ話ニ曰 種子島ニ自生甚多シ 番薯ノミ食スル人ノ食餌ノ助トナルノ外 篭ニ入レ鹿児島ヘ出売シ 價ハ甚タ廉ニテ 一篭ノ実 代金五銭五厘位ナリ 故ヲ以テ多ノ利ヲ得ズ 又嗜ム人モ少シ 依テ同氏ハ

製煉ノ事ヲ云ヘ心掛ケ人ニヨリ液ヲ煎熬シテ甜味ノ濃淡ヲ
製シ又果皮ヲ醸シテ火酒ヲ製シ又種子ヲ搾リテ油ヲ
得シガ凝結シテ皆蝋トナル因テ皿ヘ盛リ点火スルニ明光ヲ
放ツ帆燭ニ製シ試ルニ光ハ佳ナレドモ熔ケ易シ種子一斗ニテ升
ヨリ得ル蝋ノ量三斤以内ナリ
按ニ石鹸ニ用ヒバ或ハ佳ナラン試ミタシ
又日向ノ霧島山ニ其実ノ苗多シ雖モ採リ用ユル人モ何
ナニ製セシヤ 又大島鬼界島ノ烟草ハ長葉ナレドモ質宜シカラ
改良ヲ加ヘ是烟草ヲ用ベシ 又鹿児島ニテ下ニ秋烟草早烟
草ノ別アリ夏トハ土用ニ収ムモ其他ハ秋烟草ナリトシ云

マルヤ

ムベの説

廿一年十月六七日福羽美静君ハムベ実并蔓ヲ其妃鶴寿ヲ
按ズルニ余嘗テ聞シ所ムベノ名ハウベナリ鶴ヲ使用スル
ヘ
経ニシテ捉緒ノ義ナリウトム用ユルハウメムメニ転ヘ
ガ如シ而シテ出雲ニテハウベカヅラトモ云フ夫ヲ脳白ニテ鶴寿
トシタモ如ク美濃長良川ニテハ食ニ進歩シテ蔓ヘモ
用ヒズ其ノ如キモノヲ図ニトリテ係テ寄セタリ
右生存ノ事実蔓ハ四谷ノ或家ニ大ナルモノアリテ多ク実ヲ結ビシモノニテ
同君カ嘗テ其家ニ至リ実見セラレシ其ノ記アリテ副刊セシガ一枚寄セラル
其家ニ四谷左門町ノ内方也竹ノ林ヲミテ以上又大木アリシク

郁子ノ語ヲ見ス 又 山書山ノ桙ヤ大實アリ百忌ニ大抵アリト葉ニ

用捨決一書卿ナリシニ全ク聞ヘキルトニテ 原東谷卿共ニ大抵アルニ

諸人ノ挂ニ出ナラシカ 然ニ 延喜式ニ 近江國ヨリ郁子ヲ献スルコ

アリテ 近江ノ事ハ 日本書紀ニ 宣武ナノ方ニ 未タ 自生スル處

見ヤス 然ニ 人家ニ 植ヘヌルヲ 献シタルカ 又ハ 野生アリシニ 今ハナキカ

近江ニ於テハ 近古マテ 献上シタル事トミヘ 日本書紀ニ 載ル所ノ

故ヲ 桂宮ニ 主トシテ 諸取書ヲ 渇羽君ノ 著ニテ 帰トナシタル

是モ 西説ナルヲ 家ニ 見ヘ 熟シテ久キニ 堪ヘ 野ノ人

モノニテ 遠ク 献貢スルヲ 得ヘキナレ 是ニ 一月 野ノ史ニ 蒔

敗イ之是 本田子ノ如ク 開綻スルニ 由シテ 勝ニ 付

野木瓜ノ實熟シテ自ラ開綻

スルヤ香蕉不開綻者而已

尾ノ島根ナル宅并ニ都ニテモ

西石也既ニ大ニ開ノ宅ニモアリ

又開綻ヲ観タル所ナリ且

西京ノ諸説ニ乗ス

御蒼中山候

べしハ甚タ不出来

殊ニ鼠害ヲ

受リ採摘ヒタリ

濃赤色ヲ帯ヒ

縦ニ剖リ思ハシキ形ヲ現ハス

然トモ自然ニ開綻スルコト極メテ

禱田義輝君
請ム来ラレ
奥
一折
一同
一參
太

御下垂問之趣左ニ御答申上候
本年庭内ノ「ムベ」ハ甚ダ不出来ニシテ好結果ヲ得ズ殊ニ鼠害ヲ受ケ前月下旬悉ク採掃ヒタリ
該實成熟スレハ濃赤色ヲ帯ヒ縦ニ割目ト思ハシキ形ヲ現ハス
然トモ自然ニ開裂スルコト極メテ

右錦巢翁説

如キコトノ話モアリ 又此書山ノ標本方ニ大ニ力アリシ甚シ
用指使一番御ナリシニ今御入ナサレトニテ原本分御ニ大ニアリ
諸人ノ性ヘ申サレシカ然ルニ足或ニ近江武術者ノ御子ヲ蔵シテ

シルナルモノ後見ニ入レ申ス
一家中ハ早稲雅俊充分
タルモノニテ盟リハ開裂
セサルベシ
併シ多分ハ此児
廿

未タ自生スルヲ聞
路セラレシニ今ナキカ
志和尚之義ハ所ノ
ノ為ニテ幅トモ之アリ
久キニ堪ヘ今トモアラヌ
月ヨリ五月ヨリ實ノ事
セラレタルニ付信義園呼香氏ニ

シ山ナレ尼リノ[illegible]
云家ノ中ハ日[illegible]
タルモノニテ[illegible]
セ細ルベシ
併[illegible]
廿

用捨次一番[illegible]
諸人ノ性[illegible]

稀ナリ故ニ利刀ヲ以テサシハリ
筋目ニ（一ノ上面）傷付レハ忽チ開発ス
ルモノナリ
左ニ之ヲ解ス[illegible]
不當ノ事ハ推問[illegible]如

九七
昭信

福田義輔君ヨリ来ル 郁子仲起書ニ嬬ハ 桂宮ニ而[illegible]云々
請人[illegible]
奥ノ嶋与郁子ノ事
一 折 弐合
一 同 三合
一 写表 拾帖
以上
右取請取候件
延寶之年

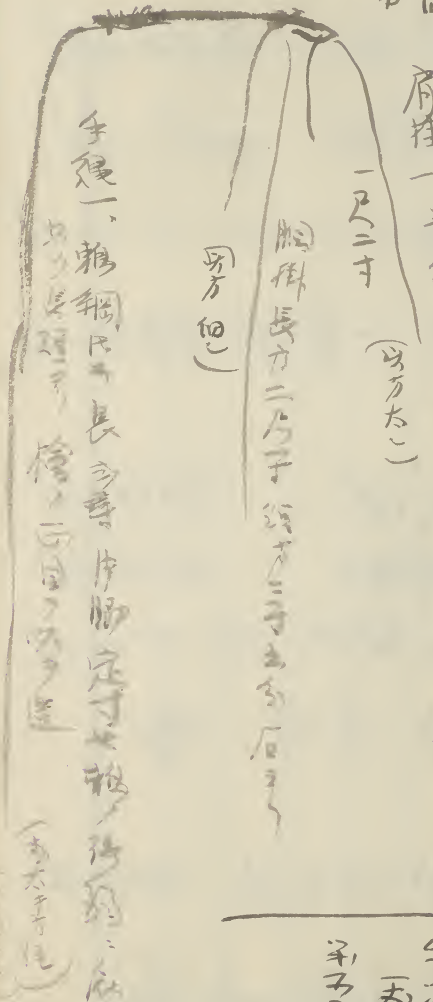
東京大学総合図書館

廿五

安月習 世路 左傳ノ歸

奥ニ鴻 下司服

長居長巳川
鋼田田用



出雲之幡白
ムベ之
一丈九尺
子二三寸

毛詩名物圖攷

ムベ 郁子 本草云 郁子一名棣 郁李 郁子 梅開

年関 倭名類聚抄 郁室 作 鄰

字信 本草和名

古今名論 …

郁子又 棚子ノ 外ヘ …

ウニラノ 郁李 一名 薁李 …

詩経名物集成ノ毛詩 陳氏草木疏同解 …

多識編 郁李 和名 字信 又云 左…

邦名考 下ノ二葉 車下李

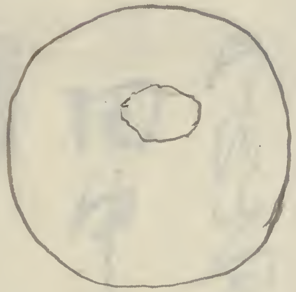
左ノ如ク郁子ハ 郁李ナリ 和名抄等 ムベニ之ヲ八ノヱテ古事

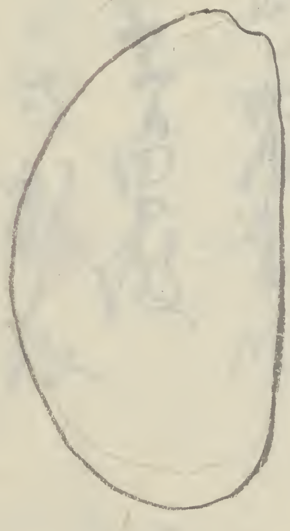
郁子ヲムベトスルハ大ナル誤ナリ

植物名実図考 三十三 郁李ノ図ハニハザクラ也

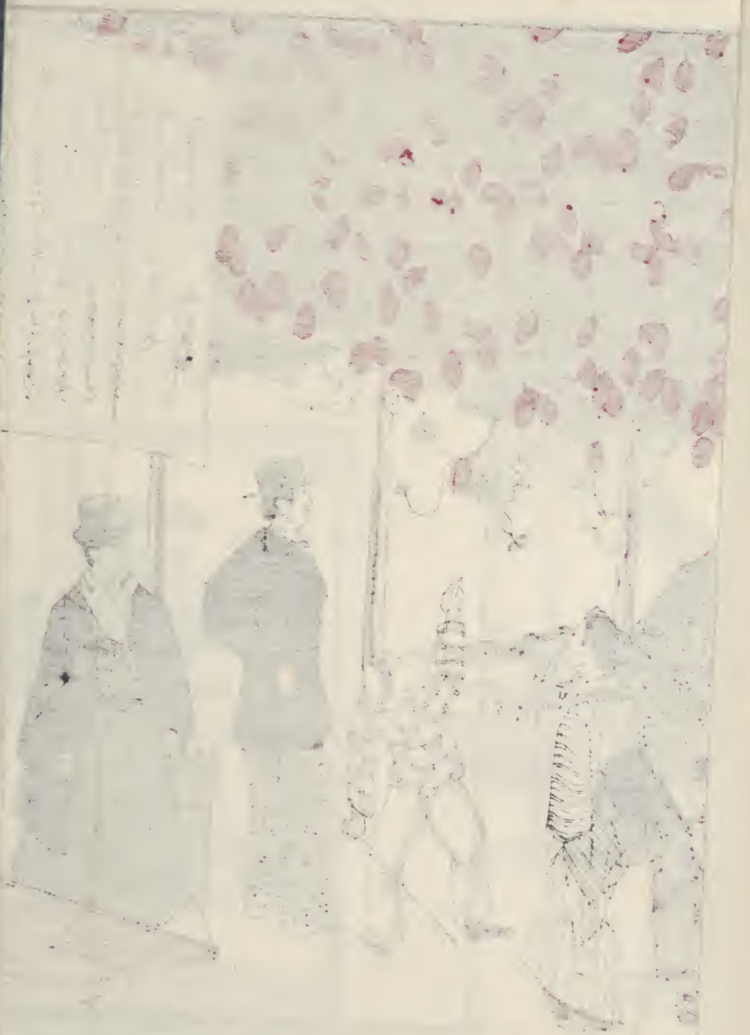
郁子 ムベ

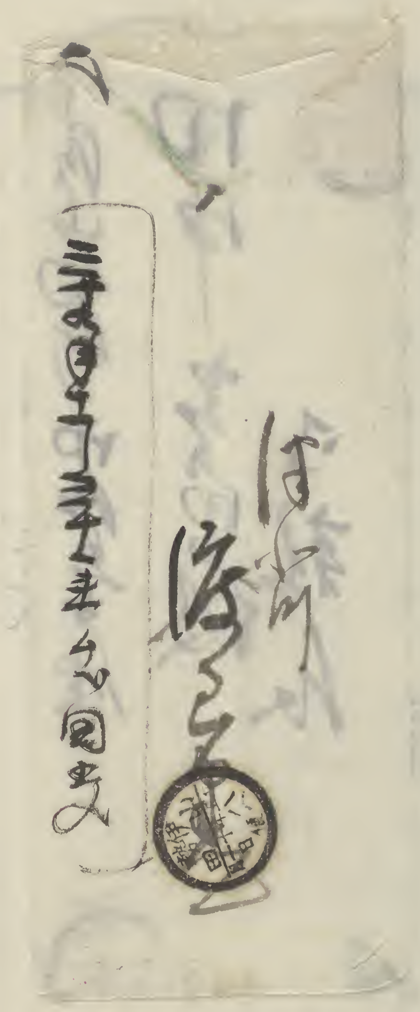
沼田實敬採集



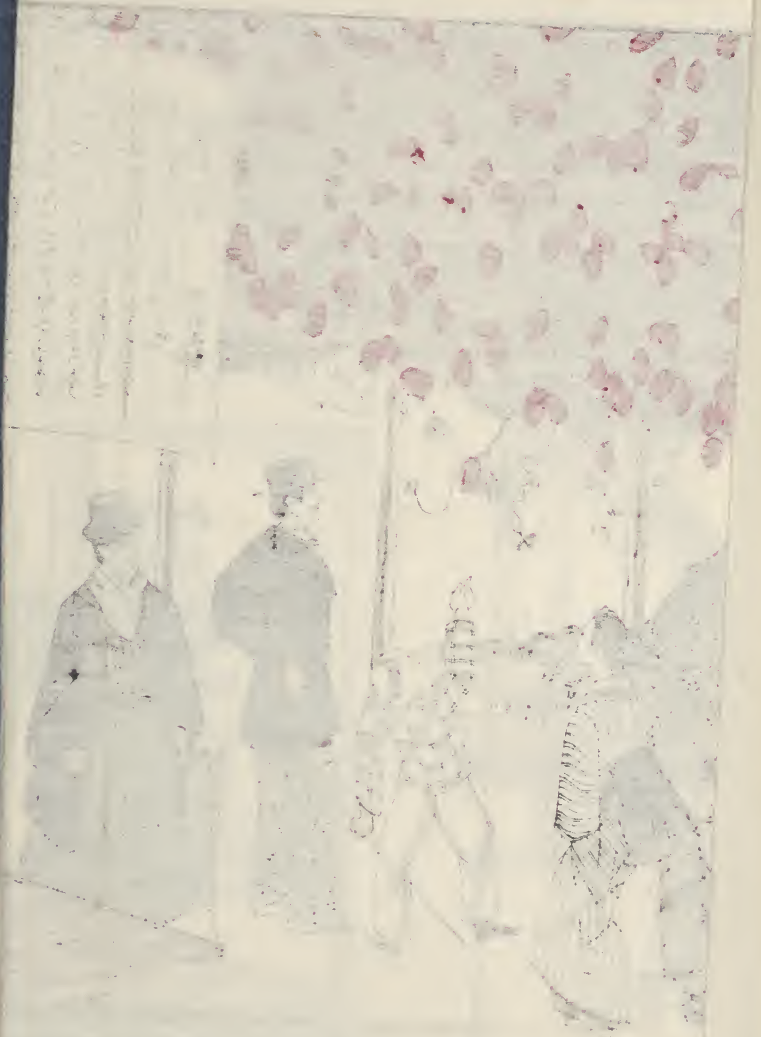


外皮殷紅色ニ紫ヲ帯ビテ甚ダ美ナリ 紅薯ト並ヘ置ケハ殆ト判別シ難キナリ 但シ他ノ一個ハ色淡クシテ東京ノヌノト似タリ





東京大学総合図書館



東京大学総合図書館

東京大学総合図書館

這寒一の名状

封筒内資料　東京大学総合図書館

むべ

○むべ（名）郁子（同）又ウベ　あけびノ一種蔓草ニテ老大ナルハ灌木ノ状ヲナス葉ハあけびニ似テ大ク固ク厚ヒ五七葉並ヒテ一大葉ヲナス淡緑ニシテ光リ冬落チズ故ニ常葉あけびノ名モアリ立夏ノ前ニ花梗ヲ出シ六弁ノ花簇ヲ開ク形稍百合ニ似テ五六分白クシテ淡紫ヲ帯ブ実ハ楕円ニシテからすうりヨリ大ナリ熟スレハ暗紫色ニシテ甘シ　野木氏

御請一昨日も拝承仕候處御病氣再発の由承り驚入候
本庄梅村生前からもとうり様のもの前園の内き
一枝手に入り候処其名をむべと申す由にて何の頃より
世話致候や知らす候へども代に移り候てもむべにて
其外に在り候へども謹て其実を破砕致
有大黒子の許へ差遣候處是に印紙を添へ返され候
頓首

追而該品ハ肉白クシテ核ハ黒ク堅キモノニ有之候

十一月

寛一拝

田中様まいる

福羽美静の君榔子の文章

東京四ツ谷區に能くみのりたる榔子ありときゝて見にまかりぬまかりてみれハ士族竹内某の園ぬちにきらきらしうみのりし能くみのりたり根ハ一本なから枝数十にさかせてうち志けり棚をつくりてめくるに房をつらねて赤らみたるさまはいはんかたなし抑このものハ延喜式に山城近江武蔵等より貢進するくさものゝうちにあるよりかれこれの書にも其ことを書記しあるに黒川道祐の日次紀事伴蒿蹊の閑田耕筆なとにくはしくあるを近江の人西川吉輔は榔子考といふ書を著ハせりまた後水尾院天皇の年中行事十一月の条にもそえ侍りて近江より奉れるをハ近き世まてもたゆることなかりしをされハ去年近江の行幸のをりも昔をつぎて行在所に奉れりときゝ侍りぬ美静いはけなきより近江におもひなるをり奥の嶋といふ所に至りて見侍りしに誠にめつらしきものにて能く生ひ茂れりこれは老樹なりより榔子田とて田所をつけおきて貢献に当らすあらさらましかはよしいま東京にして其老木にもをさをさ劣らぬめてたきを見出つるこそのうれしさに一枝二枝をゝらせてとりかへりなるをかしこけれと隣なる侍りぬそれに添てよみける歌

西ひかし同しみやこへやさかゆく里人もたえすとゝけゝり

古ゝろころへもこゝけりとあるハ此くてふものこゝにハ侍らねと其都同しきによりて今かりて示しつくし侍るになんあなかしこ

右一篇榔子をやんことなきところにまゐりけるをりそへてまゐりけるや

明治十二年十二月

福羽美静

青森縣ヨリ来ル木通ノ実 十二年十月九日 武藤勗氏持来ルヲ食ス

按ニ渓谷下ハミツバアケビ多ケレバ或ハ然ルカ

縦截

横断

外皮ノ色紫色 内部ハ白色ニメ苦味アリ 瓤ハ半透明ニシテ軟脆甘味 仁ハ褐黒色ニメ光滑 長卵形アリ 頭ニ白斑アリ

百廿五粒アリ

廣島

イチジク

形較扁圓　紫赤色　熟シテ柔軟　味酸多甘少

廣島ニ於テモ同様ナレ氏最大ナルヲ見ス　此実ハ安藝郡呉港へ上陸ノ際求メ印之ス

明治六年十月二十日　田芳紀

西洋
白無果
形倒卵ニシテ
長ク孔少
こ色ニシ
熟シテハ
内ハヤヽ淡
紅ヲ呈ス味甘シ
漿多ク美ナリ

葉如此五
岐ナリ

明治廿五年
九月廿七
田中

西洋無花果ハ　葉如前ナルアルモ多クハ如此
形ヲ為シ　性如キモノナリ　実ヲ結ブコト甚多シ

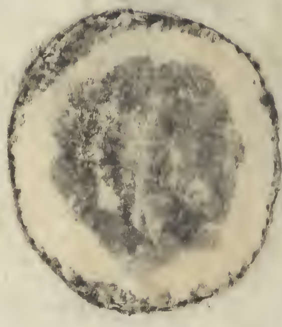
洋種白無花果　三十三双

其果ハ舊枝ニ結ブ
者ハ七月熟シ新
枝ニ結ブ者ハ八月
以後ノ熟果ナリ
然ニ旧枝ノ者ハ必
肥大ナルモ多数ヲ
得ガタク加之他ノ妨害ヲ受ケ易シ　故ニ本年六月中

明治十四年七月十四日
田中芳男記

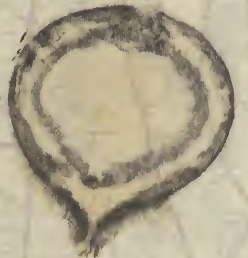
七月廿八日川崎氏ニ
於テ家園ニ生セシ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

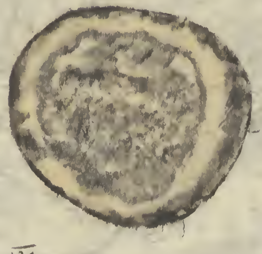
二 数個ニ洗紙絨ヲ被セ置キシニ更ニ妨害ヲ受ケ
ハ一ナク熟スルヲ得タリ
因テ最早熟スル者ヲ
採ル 外皮淡緑色ニ
上部ニ稍微褐色ヲ
帯ブ 内部ハ微褐色
ヲ帯ビテ全熟ス 柔軟
甘味極メテ佳美ナリシ
洗紙絨ノ効ナルベシ

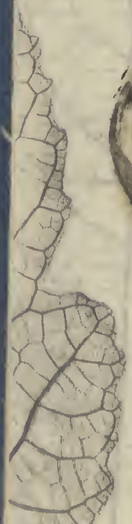


下谷ノ三河字
一郎ニ[illegible]
ヘハ早ク[illegible]
リモ[illegible]
ハ五十[illegible]
リト云フ
ハシカレ
佐[illegible]

日本種 白露果 今年結果甚シ 十分以上ノ実ヲ多ク結ブ
外皮熟シテ紫
黒色トナルモ稍
ハ紫斑ニテ暗
濁暈斑ナレドモ
遂ニ純紫黒ト
ナリ
内部白色
ナルヲ以テ白
露果ト云フナラン







大抵大ナルモノ十分 小ナルハ
十分以下
未熟ハ多ク味ナシ 要ス
中心熟スル
所ハ汁液
多ク甘味
ナリ 酸
気更ニナシ
唯外種ハ甘味乏シキナリ
熟シテ心ハ自ラ
落ルモノナリ

スグリ実ヲ種ヘシテ 二年ニシテ[illegible]

七月廿三日 [illegible]

[illegible]

七月十三日 [illegible]

最大実 [illegible]

中実 [illegible]

二年七月十三日

葉ハ如此形ヲ常トス

明治廿三年九月廿一日

田中芳男記

横濱名川仲町四丁目　植木商

大日本農会特別會員　岩附小三郎

コケンメ

本年十一月日光ニ於テ採取シ之レヲ本邦在留
ノ或ル獨逸人ニ示シ少許ヲ配分ス獨逸人
大ニ賞讃シコツクニ命シ製セシム岩附
氏亦製方ヲ依頼シテ「ジヤム」ト「水」ノ二種ヲ
造リシ由ナレモ当初ノ試験ナレバ夥敷ク製
セズ唯風味ノ如何ト當路ノ士ノ意見ヲ聞
キ多製ヲ試ムルノ見込ナレバ他日本會ヘ
於テ何分ノ御教示ヲ蒙リタシ迚帰ラレ候

スグリ一貫目
皮二百目　果汁八百目
砂糖三百二十目
出来上リ五百目

一 色々ノ大数

鼠色	二十一枚
藍色	三枚
萌黄色	二枚
文字入ノ分	
茶色	弐枚
黒色	三枚
鼠色	百三十九枚
藍色	三枚
萌黄色	二枚
茶色	弐枚
赤色	弐枚
薄藤ソノ分	

一 杏実ハ信州ノ名山 高井郡ニ産ス
一 自生ス方言コケノミ 又
寒紅梅ト新称アリ
昨年内野者ノ試験ヲ
受ケ食用不ナル人死ス
危害甚多キ[illegible]

寒紅梅

三木橘濱ニンジヤミニ説
（三木ハ木名ナリ）
三浩ケリ
又雲ノ日地ニテ酒ニ造リ升
難澀常濱ノ者（残）売リ名
アリト云
右製造人ヨリ直ニ聞ク

薩摩ノ方言
中ヤマミカン
ノ名ハ同名
アリ 局柑
穀ヨリ薩摩
ノ海門嶽ニ自
生ス柑アリ 是モ
同名ナレド 品別
ナリ 又アマツウ
アマカヅラ モ同名
アリ カサミカンモ
茘枝橘ノ名ト
同名ナリ 根固
又人ノ切レ

クハクバツガユ

大和本草ニ和活ガ柚トアリ 曲田久成君曰此樹ハ
（長崎[illegible]一ノ国アリ クハクバガユ 又方言 ソニノイケ 所ニヨリ ニモ評 業アナ子ニ似テ 葉[illegible] [illegible]大[illegible]）
薩摩大隅ノ地ニ自生ス 鹿児島ノ近所ニモアリ 高山ニハナシ
秋月実熟シ黄色紅其味ハ淡甘ニシテ酸ナリ莢
ナリ 外面瘔瘰アレド 粗硬ナラズ 平滑ナル部ト 疣子ナシトミラ
田代安定氏ノ因テ是ヘニ枝ニ互生ノ刺アリ 葉ハ其下部
ヨリ出テ 葉ハ上部ヨリ出ツ 一分餘ノ短柄ノ上ニ葉ヲ
結ブ 圓形径七八分 全面細緻紋アリ 赭赤色ナリ
其因ニ記セン 後ニ曰 薩摩国鹿児島辺 方言ヤマミカン
又アマヅラ 又アマカヅラ 又カサミカン 是ハ橘ノ一種ニ

東京大学総合図書館

過日來庭前ニ植ヱル所ノ小笠原島第二号ノ名称等ハ留守
ノ中ニ手ニ被入旁[illegible]

[illegible]

ニ生シ葉上
テ後ハ
以テ分根
ニ換ユヘシ 然モ根際ヨリ分根スル多クシ 而シテ貴郎ノ用
ハ尋常果ト異ナラテ葉ノ上下ニ多ク分株ヲナス故ニ葉
ノ為メニハ宜シカラズ 後ニ分栽セハ多ク分根ヲ得ヘシ
此草大抵寒湿ヲ厭フ故ニ盆栽ニテ煖塘ニ養フ

七年二月四日田代氏ヨリ
常緑樹ニテ之ヲ植物ニテ見ルニ
大平洋人手ニ
樹葉ヲ採リ
ニ似タリ

ニテ橘属ニ非ス蔓本ニシテ所ト山野ニ自生ス味
甘美 餡ノ如シ形ハ茘枝ニ類似ストアリ 華ヲ横
断スル目アリ 恰圓梨ヲ横断スルカ如ク中心ヨリ四方ヘ
射出スルハ車輻状ヲナシ外部ニ子粒ノ生スル房ナルカ如シ
又其傍ニ麻子状ノモノアリ 子粒ノ成熟スル者ナリ
熟スルニ非常緑木ハ盆栽ノ外是多ク丁セ故ニ実ヲ知ラス
葉ハ堅緑色堅硬ナリ形ハ楕圓両尖ナリ大ナルハ長二寸
柄五分アリ 清国ノ奴拓 本国ノ「ヨサイ」ヲレニ一同属ニシテ
蕁麻科ニ属セ雄花雌花アルモノト見ユ

明治七年二月三日

田中芳男記

(大本ナノ名モ之)
八重山ヨリ鉢ニ植ヘ用ヘ之ヲ献セシ

紙 儀 板

天河苔天河新金谷
朝鮮せりにて製造さる
同脳分離法の方法ハ同様の
分子を塩浸しありますを米糠
壹升醤油一升壹合ありまする塩壹合
程を混和し漬の漬汁ハ能
の漬汁をとめてドブいっして漬込
み置き候ハ堅気をもってよろしき
かやうにいたし候ハ食料によろしき
一年以上くらいもたちますればとうふ
味ひよろしくなりますが其香ハ花く
物ハ塩気を少くして結構なるよくよく
塩漬をとみてよからし
その漬汁ハ一升程に漬つる酒ちょうに
しよう和て三合ほどまぜ
よにしんを漬るもよからん
かねがし

奉書ハ状にて

安

大正十年十月ノ
四代目西之園
常緑樹ニ
植物ニテ見
ダニノ様ナリ
太平洋ノ人家
ニ樹並ヲ培
クセリ八丈島ニ
テ切テ保存シ
又目下植物ノ
並木ヲ見ル）
十二月宮城ニ
来リ葉ヲ見
年来二十ヲアリ
明治二十年千九
擬実也

シテ橘属ニ非ス　蔓本ニシテ所々山野ニ自生ス　味
甘美　餅ノ如シ　形ハ茘枝ニ類似ストアリ　葉ヲ横
断スレハ　図アリ　恰　鳳梨ヲ横断スルカ如ク　中心ヨリ四方ヘ
射出スルハ　車輻状ヲナシ　外部ニ子粒ノ生スル所アルカ如シ
又其傍ニ麻子状ノモノアリ　[illegible]子粒ノ成熟スル者ナリ
栽スルニ　此常緑木ハ　盆栽ノ外見タルコトナシ　故ニ実ヲ知ラス
葉ハ　堅緑色堅硬ナリ　形ハ　楕円西実ナリ　大ナルハ長二寸
柄五分アリ　清国ノ奴柘　米国ノ「ヲサムシヲレニジ」一同属ニシテ
蕁麻科ニ属シ　雄花雌花アルモノト見エ

明治十五年十二月三日

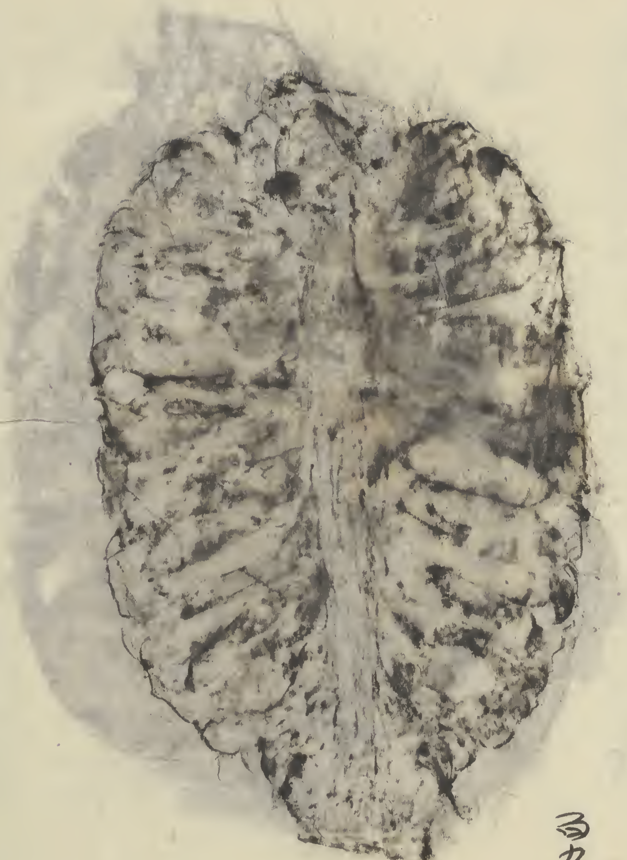
田中芳男記

鹿児島迄ニ　済門生ハ（大本ナノ意之く）庭見ル
八重山ヨリ鹿児島ヘ来ル二ツ　株本ナシ

過日来庭前ニ植ル所ノ小笠原島ヨリ来ル二本ノ名称等心当リ
ノ申出ヲ乞フ　ものあるにより

一　アナヽス　Ananas; Pine-apple
（羅甸名ナレ氏　和名ニ専ラ用フ　英名　松毬状果ノ義）
鳳梨ハ漢名ナリ

右ハ暖国ノ草ナリ　葉心ヨリ茎ヲ出シ　茎上ニ葉ヲ生シ葉上
ニ小株ヲ生ス　此草経年枯レス　然レ氏　葉ヲ生シテ後ハ
其茎ヨリ腐リ枯ルヽヲ常トス　故ニ　葉上ノ小株ヲ以テ分苗
ニ換ユヘシ　又根際ヨリ分根スルモアルヘシ　而シテ　貴郷ノ辺
ハ尋常草ト異ラテ　葉ノ上下ニ多少分株ヲナス　故ニ葉
ノ為メニハ宜シカラス　後ニ分栽セハ多ク分根ヲ得ヘシ
此草ハ大ナレ氏　寒湿ヲ厭フ故ニ　盆栽ニシテ　暖塘ニ養フ



小笠原島鳳梨

十二年八月下 小野田之熈贈

百九十二叉

寄一

ごし手地ヲ蒸スコトハ如何アランヤ 本年駒場農学校ニテ
盆栽セシモノ草ヲ結フ八月ノ果物品評会ニ出セシ五葉蒙
ヲ得タリ 原来此果ハ外面ニ硬キ皮アリ故ニ皮ト心トヲ除キ
合スヘシ 又糖蔵塩蔵トスレハ生鮮ニ若カス 小笠原島ノ
外琉球地方ニテ支那ノ南方馬来印度等多ク産シ欧洲ノ
旅客賞味スル所タリ

一 ハマヲモト 文殊蘭 是ハ伊豆ノ南地安房等ヲ初トシテ
本邦ノ南方海濱ニ自生スル有毒草ノ種属ナリ 唯
葉ノ壮観ト花ノ美ナルヲ賞スヘシ 是亦寒湿ヲ忌ム故
冬月ハ掘出シ乾燥ノ所ニ置クヘシ 冬月中水ナキモ毎
植ヘニナセルモ盆栽ニシ胸墻ニ入ルヽヲ良トス

品川大輔殿

十六年九月十四日　田中芳男

一カチクリ　南會津郡ノ産
旧国ヨリ送リ来レリ
右呈上仕候此産壱ヶ年中ニ
餘程多額ノモノニテ概ネ東京ニ輸
出スル者ノ数ハ数百俵ナリ　栃木縣ヨリ
而シテ此栗ハ皆山栗ニテ自然生ナリ　栗ノ種
類ニ数種アリ　ヌンバグリ　是ハ自然
生ニハナシ形大ナリ　マメグリ　形小ニシテ自然生
クリ　サハグリ　ミツクリ　セニダイグリ

等其外俗ハ出来セリ　ニテナルハ
秋熟シテ風動アル朝山林ニ我先キト　男女
争フテ拾ヒ出ルナリ　澤山ニ拾フモノハ
一日五斗モ三斗モ拾ヒ帰ルナリ　山奥
若間ホ一里モ二里モ行テ拾ルコトアリ
ミヲ拾フノミニテ落シ尽ル様ナヘテ
ナシ　持林モ外ハバカリ杯植付置ケル
モノハ持主ニテ屋ヒトル事アリ　是ハ砂
雪トシテ細砂ノ中ニ埋置キ冬ヨリ春ニ
ヤキテ皮ヲムキ煮物坪等ニ用ル
ナリ

十八年
三月十四日　河田景與

田中様

民陸ノ八三リ

[illegible]識まし　寧年美之意

上二高井郡

也ハ信州小布施上町と申し

右町ハ何郡ニて　松代ニ此在

須坂

と御尋ニ付　明年より

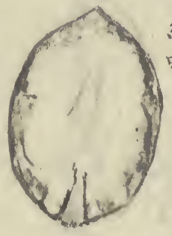
廿二年十一月　并て

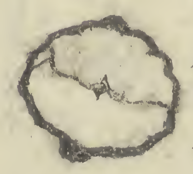
田井男

秋田産
テウチクルミ
胡桃ナレド 痩疵等ト形異ナリ

長一寸二分
又一寸八分

径一寸





縦割ハ離シ易キモ
横断リ鋸ヲ以テ切
リ割ルモノナリ

仁ハ皺縮多ク味ハ浄品ニ大差ナシ

廿一年二月廿五日
曲直瀬氏ヨリ得タリ

池田謙斎撰

棟子頃栽し頻か結
均ヲ年し有之ヲ法し
物トモ候手数ニ付
去し候共玉ニ元ニ付之御せ
譲其署様ニ而他ニ者植物
ニ景スん与ハ岩ノミ むき譲
歩こずぬ也たし

米国産胡桃ニハ数品アリ
其左ニ出して

米国種
ウヰールナット
〃黒種
プラツクウヰンナット
〃白種
ヒコリーナット
〃〃種
ピカンナット

イタリヤ種
ウヰンナット
右在来風土ニ能ク適シ是又

米国
細長里胡桃

米国
シグランスレージヤ

右三品ハ泰西ヨリ入ルモノニシテ
其他ニテ都合七種アリテ
我清国胡桃ニ種ヲ加フ

ベーゼルナハト氏ヘ標本を
頼ミ候て
大学之内ニ区畫
ある間(?)貴下之候
標本之外(?)倉(?)部(?)之
之(?)外ニ田中芳男君之
宜敷御取計(?)
奉願(?)候

三月二十日　北里柴三郎

田中芳男君

尚々
伴(?)居(?)へも(?)から(?)差出(?)候
之(?)由(?)御(?)蔵(?)書(?)類(?)
御(?)地(?)早(?)々(?)御(?)返(?)し(?)
下(?)され(?)度(?)候

上面

菱 外

舎密ノ良ト也
明礬ハ硫酸ニ拝也
有之
或ハ暴之ニ掠ハ

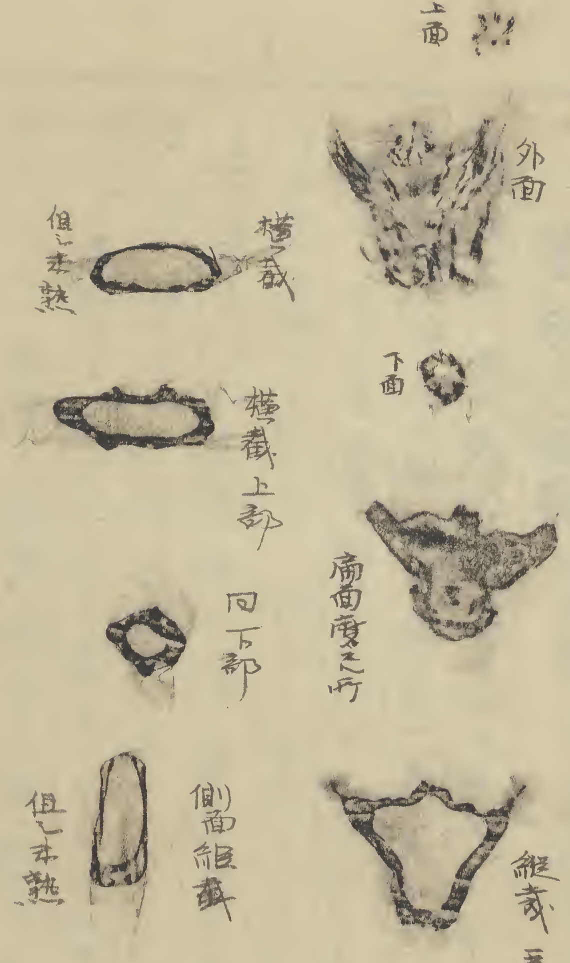
下面

一 此ノ度 長門守ヨリ申来
シ 新製ノ薬ヲ 白ニ藤
如ク ニ浮表 ニ候也 又
アスペラクス ハ 植物ニ而
新製ノ薬ト 譯名ナルニ而
ニハ 日本 草綱ニ 其文
無之候也
如ク 甘し

北

菱　両角ノモノ

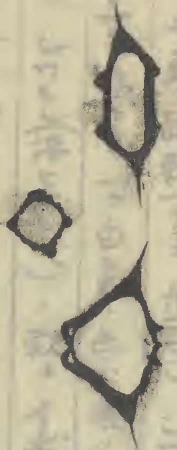
宮城縣仙臺乾物



食料ニ亦 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] 田中先生 机下
備國德明拜之名

麦角ノ種類 附英実

一又英ヲ穿テ出ツ、
ニ良民孝ヲ小冊ニ述之
一日ニ代キナキ任ヲ得ヽノ
ニ延ヲ多クシ オニヒヽ ニ延
リ葉ニ元来ヲ良ブ白ク之ヲ
コメヒニ アリ 手ヒニハ刺
アリ エワヒニ混ニ売ヘヲ
カラス 故ニ價高シ 是等ハ
生ノ隙ニ売ヘリ 支那科比用ニ乾ス方四カラニ也 生乾セサレハ不可ナラスト

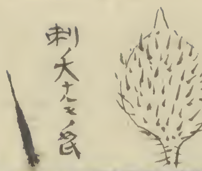


丁内資料 東京大学総合図書館

菱角ノ種類 附芡実

山城淀ノ辺ニ横大路ノ辺アリ 菱多シ又芡モアリ 毎年出水ノ為メ周囲ノ田ハ水ヲ被リ又モ 菱多キハ貧民俘ヲ小舟ニ之ヲ採集ヘリ多シ 而シテ生実ヲ塩煮シテ売ル 一日ニ代カ十銭位ヲ得ルニトリト 其菱ノ種類ハ一ナラス オニビシ ヒメビシ ノ二種ヲ多トス オニビシ 二種アリ 一ヲ赤ト云ヒ 一ヲ白ト云フ 赤ハ実ノ外皮赤ク 葉モ赤ヲ帯ブ 白ハ之ニ反ス シワビシ（捩ヒメビシ）ノ類ニ イボビシ コメビシ アリ 千ビシハ刺鋭ナラス 稿形ナラス ヒメビシ 小ニシテ小形ナリ シワビシニ混ジ売ルヲ寄セシ オニビシ 刺四アリ 殻硬ク 割易カラス 故ニ價高シ 是等ハ生ノ儘ニ売ル所ヲ 支那料理用ニ乾ス方出カラニモ 生乾セサレハ不可ナリト云フ

東京大学総合図書館



苞ノ葉大ナルハ疊三枚程モアリ 實ハ水中ニアリテ 巨鳥カ土人ハ
葉ヲ除ケテ容易ニ採ル 大サ鶏卵ノ如ク 其嫩キハ肉汁白色 嫩キ白子
多シ ト採テ食フニ栗ノ如シ 今持来ルモノ 長五寸 巨子十数許アリ
上部萼中ニアルノ瓣ハ 鮮紫色ニシテ用キタル色ヲ失ハズ 如此 花ニ勢
アリテ 而未熟スベキモ 實ハ 熟シタルト見ヘテ 全体軟膚ニシテ 内ニ
蓮子ニ似タル団子多シ 粘滑ナル熟液ヲ含ム 子粒 数田形 暗茶色 凹凸
アリ 胎痕四点ノ傍 較高ク 楕円紋アリ 剥シバ（に）如此 仁ハ水気多ク

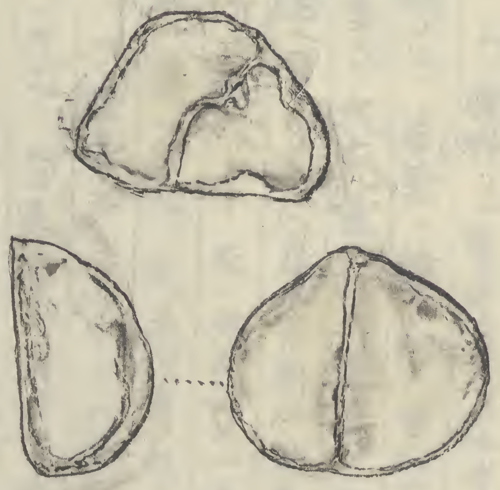
（胎痕内ニアルハ胚珠ナリ）

純白色 蓮子ノ味ヨリ甘シ 子粒ノ数四十九個
右ハ一町ナ郡村ニ於テ河原田君ノ甚ダ贈ラ
所ナリ 明治大三年九月廿六日 田中芳男記

大栗

十三匁 十二匁位
二子多シ 味ハ甘美

第廿二回農産品評会 東多村 荻部国五郎 出品
三十年十月廿二日記



扶文郡ニ於テハ
茎ヲ発シ此ヲ
食ス 芽茎ヲ
表皮ヲ去ル
ミ七年九月
河辺民君等
帰帆大村池ノ
実ハ一顆中ノ
子数十九アリ

芡ノ說 (Euryale ferox.)

オニバス 一名ミヅブキハ睡蓮科ノ一年草ナリ沼池等ノ瀦溜ニ生ス発生ノ始ハ葉大サ錢ノ如ク甚ダ荇葉ノ葉ニ似テ紫斑点アリ是ハ刺ヲ生スル部ナラン八月ニ至レバ大ナル葉ヲ出ス盆ノ如ク盤ノ如ク表裏共ニ刺アリテ手ヲ觸ルベカラズ花ハ八月後九月頃ノ紫色ニテ秋上ニ在リ其球ハ次第ニ長大トナリ花ノ先色之ヲ一方ニ突出シ恰モ鳥ノ首ノ如シ故ニ漢名鶏頭實トス内ニ多ノ子程アリ形色蓮實ノ如シ又数珠子ニ似タリ円形ニシテ比較長キモアリ大サ大豆位アリ大ナル蓮實位アリ故ニ四分許リニテ
南葛飾郡堀切村ケチ沼ニ産ス之ヲ其実ノ採集ヲ為子小高

植物御苑ノ温室ニ
結ブ所ノ蕉實 十個列生

明治三十五年
一月十六日写生

田中五一

一個ノ量
十七八匁アリ

[illegible] 十一月十九[illegible] 是ハ十日許前最早
熟シテ開綻シ [illegible] 吐ルカ如クアリ
[illegible] 採タル実ハ 平五郎許ニテ [illegible] 得タルノ由
[illegible] 二百九
[illegible]
一般[illegible]ニ用ヒルコトアリ
[illegible] 十五両アリトスルコト是ハ目前
[illegible] 薬剤ニ用ヒテ百斤價銀
[illegible] 此價ニ

明治廿二年十一月十日 [illegible]

田芳記

植物御苑ノ温室ニ
結ブ所ノ蕉實 十個列生
明治三十五年
一月十六日写生
田中五一

一個ノ量
十七八匁アリ

此ノ株ハ二ケ月十日九寸許ノ花莖ヲ抽キ是ヨリ十日許ニテ最早
花ヲ開キ 数度ヲ経テ[illegible]ヲ吐クガ如クアリ
シトセリ 採ルニ實ハ一房五十許ニシテ長サ五寸許ヲ得タルノ由
五寸許ノ 横濱植木商ヘ送リタリトセリ 其實ヲ計ルニ二百九
本許アリシ
按ニ蕉實ハ一名鶴豆子トモ云フ 支那ニ於テ一般料理ニ用フルコトアリ
故ニ上等百斤ノ價金二十両 特等七両 下等ハ十五両アリトモ云フ 是ハ日清
始メ貿易ノ際ニハ 支那貿易物産字典ニハ 華洋ニ輸出シ百斤價銀
三両トアリ 又支那人ハ 蕉實ヲ種ヲ抜キ 糖果餡トシ 賣ルト云フ 其價ニ
ヨレハ一斤拾銭位ナリ

明治三十二年十一月十五日 小笠原伊藤氏ヨリ送リ来リシ分ニ[illegible]
田芳記

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館

植物御苑ノ温室ニ結ブ所ノ蕉實 十個 列生

明治三十五年 一月十六日 写生

田中五一

氏ノ既ニ之ニ 十一月十四日 [illegible] 是ハ

熟シテ開裂シ 数百ノ二叩 [illegible] 要熟

シトモ 採之 実ハ 平五郎 汗ニテ 壱升五

五合 得タ 横濱植木商 田中へ 売リタリトモ [illegible]

[illegible]

椰 蕉実ハ 一名 鶴豆子トモ 支那ニ於テ 一般 [illegible]

故ニ 上等 百斤ノ 價金 二十両 下等ハ 十五両

[illegible] 支那四書 物産字典ニ [illegible]

三両トアリ 又支那人ハ 蕉実 種子 [illegible]

是ハ 一斤 [illegible]

[illegible]

植物御苑ノ温室ニ結ブ所ノ蕉實 十個列生

明治三十五年一月十六日写生

田中五一

此花ハ毎日一苞一瓣開キ中ニ二十餘花列リ開キ進ムモ七段トナニ止メル其後本ノ方ヨリ熟ニカヽル時採リ吊シ熟スルヲ待チ段ニ食シ得ベシ一度ニ採リ置クモ熟期ハ大ニ異ナラズト云フ

一個ノ量十七八匁アリ

過般山形縣東置賜郡中川村字中山産葡萄

ブラックハンブルグ 黒色

Black Humburg

シヤスラ、デウ、フオンテンブロウ、 白色

Chasselas de Fontainebleau

シヤスラ、ローズ、(仏)又稱シヤスラ、ルウジユ(英)

此花ハ毎日一苞一辧開キ中ニ
二十餘花列リ開キ進ム七
段トナリ止メル其後本ノ方ヨリ
熟ニカヽル時採リ吊シ熟スハ
十日待チ段々ニ食シ得ベシ
三段ニ採リ置クモ熟期ハ
大ニ異ナラズト云フ

過般山形縣東置賜郡中川村字中山産葡萄
ブラックハンブルグ　黒色
Black Humberg
シヤスラ、デウ、フオンテンブロウ、　白色
Chasselas de Fontainebleau
シヤスラ、ローズ、(仏)又称シヤスラ、ルウジユ(英)
Chasselas Rouge (& Chasselas Rose)
の三種を本会に送り来れり。同地及其附近の凝灰岩
崩解の土壌も能く欧州種葡萄の栽培に適せり。是れ土
性の理学的性質良好なるによりて然るのみならず此地

才も山岳の重畳せるよりして空気の乾燥せるが為めに良果を産するものと謂ふべく、今我国にて欧州種葡萄の露地栽培に於ける山形県東置賜郡中川村中山の如き又同郡屋代村時沢の如き或は青森県弘前市藤田葡萄園の如き何れも屈指の好適産地として見るべけんなり、

右三種の中殊にシャスラデ、フォンテンブロウは高尚淡味の生食の優品にして既に東京市其他に向て販売の途開けたるものなり、邦人の葡萄に対する嗜好は其色の紅色を帯ぶるを可とし甲州葡萄の如き河内葡萄の如き多年見馴れたる大脳より来りたるものにしてシャスラローズも此点よりして気受けよかりし

十行 池ノ端中

去りも眞の風味にてはフォンテンブロウには及ばずとすべし、デラックハンブルグは紫黒色なるを以て価は前二者に及ばざるは論なし、但しフォンテンデブロウは白色なるも漸時世人に其良品なることが認められ来れるの傾勢なり

右ハ博士原熙君ノ鑑定書ノ要ニ農会ノ幹事ガ摘抄
八十六号ノ内ニ附掲セリ

西洋葡萄（川上善兵衛氏培養）

白葡萄之部　四種

一、レデーワシントン　甘　中粒

一、オルレアンス　ソースリング　甘　種離レ宜し、小粒

一、ピノー　ブラン　甘　種ハナしヨし　小粒

一、レベッカ　甘　皮厚ク、香アリ、中粒

黒葡萄　五種

一、マタロ　多汁、皮厚、中粒

一、ベレー　甘　酸味アリ、核ハナしヨし

一、ハーバート　酸多し、大粒

東京大学総合図書館

一、ミルス　甘味多ク、肉シマル　皮厚シ、香アリ、

一、ブラック　マラカッテロ　甘味多シ、小粒

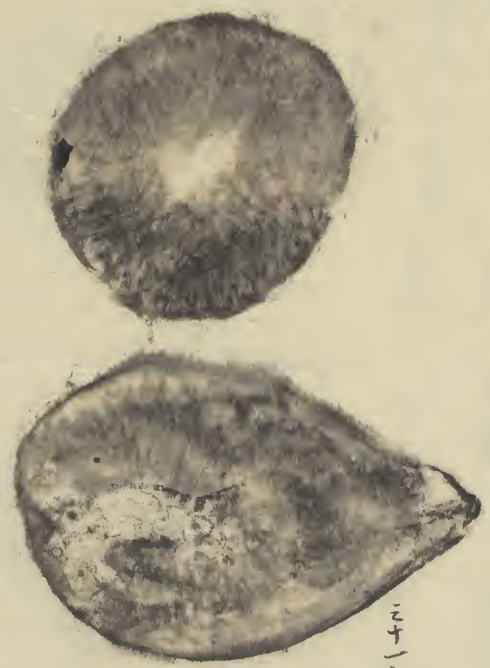
明治廿九年十月十九日　宮本雨一氏ヨリ来ル、

六ケ　栖植ニ而ニ分ツ

十　池ノ端中島屋製

イチヂク　三十五年七月三十日　弐個採ル　一ハ三十一匁五分　一ハ二十八匁五分

西洋白[illegible]　昨年植付ケ鉢ニ結実ス



二十一匁五分

古ノ所 [illegible]

[illegible] 白[illegible] [illegible]

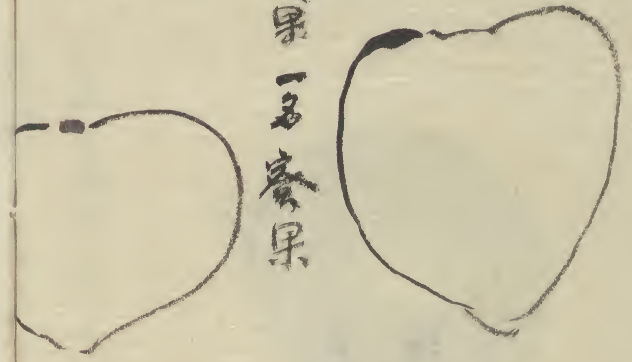
円中白ノ円ニ[illegible]

[illegible]

無子

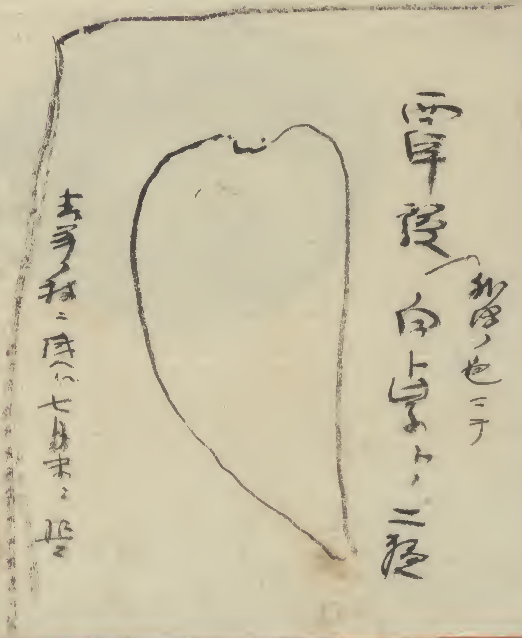
無花果　一名蜜果

九形



雪早種（紅実ノ色ニテ）白上実ト二種

去年秋ニ実ハ七月末ニ熟ス



果白蜜果ハ　紅実ハ紫色
肉中白ク軟ニシテ味美

伊勢四日市市行方庄助氏新製

西洋種白蜜果試製

淡黄褐色（アメイロ）美麗　味甘美

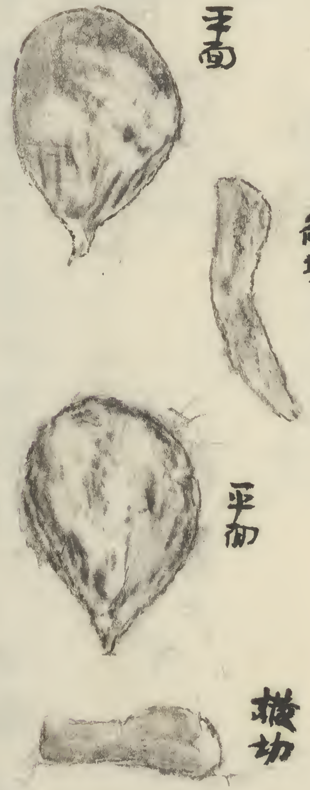
大正三年九月十六

平面

縦切

平面

横切



一個ノ量五匁六分ヨリ三匁五分迄

乾燥
西洋
乾燥
越伊勢
大正三
吹白
不似無

館

郵便往復はがき
（往信）

東京市本郷区
金助町七二
田中芳男様

四日市[illegible]
行方庄助

大正三年九月十三日

印刷局製造　逓信省発行

西洋種蜜柑ノ良好ナルコトハ御同感ニ候　[illegible]年来其枝ヲ送リテ挿植セシメ今年既ニ結果アルヲ以テ既ニ製造ニ着手シ成績ヲ余ニ送リ来スノナリ

西洋種（蜜柑ノ也ニテ）向上宗ト二種

東京大学総合図書館

乾蒸図
西洋
乾製
然伊勢
大正三
火白蒸
不似無
示甚形

拝啓
果実送り下され有難く
乾果ハ色ハ一寸好
ニ賜ハリ下され候
来年早々
今頭まて参り可申
草々

西洋種蒸製良好ナルコトハ原田氏ノ嘗テ御手許ニ其枝ヲ送リテ挿植セシメ今年既ニ結果スルヲ以テ製造ニ着手セシ成績ヲ今送リ来レルノナリ

拝復 本年ハ殊の外大暑ニて 御尊大様にも 定めて御困り
と存じ候ところ 東京ニテ無花果ハ好成績ニ御座候由
本年ハお話し致し候「ジヤム」及 乾燥 瓶詰の外
本年ハ新年苦心研究致居候 無花果 果山
御地方 初穂ノ結果漸ク試験致シ候 見
本制遂仕候 何卒御目を被通下度 候
御一覧下され候
十月中旬 御来訪相成候ハヽ 十月廿六日迄
在宅ニ候間 幾日ニても御差支無之候 本月廿六日
当地佐部祭礼ニ付 四月末より 種々の
取りもの有之 一寸ハ見物ニ候 御来訪相成度候
来訪 草々

道信省發行　印刷局製造

拝[illegible]
貴墨ニ白[illegible]候處の
[illegible]果ノ色ヲ以テ[illegible]
之賜ト存[illegible]候也
永年其事ハ
合歡ト云ノ事
[illegible]ニ云ハルサキ穂
開花ノ時ト年ノ
産地紹介之上
[illegible]ニ未発見ニ
未定ノモノ有之ように
[illegible]ニ益標本
[illegible]不許可之ニ
只ニ追テ転送[illegible]
追ニ以テ又存候にて
何卒モ其御用ト
[illegible]ニサヨ候事

印刷局製造
遞信省發行
東京大学総合図書館

よろしく御執成之程
ノト平素心配仕
居り候
先ハ果ハ銀行ヨリ受
[illegible]
之義[illegible]決定候
候よし承り候
貴殿兼而申上
又乾果[illegible]
右用事迄[illegible]
[illegible]
[illegible]
田中芳男様

乾養果之評
西洋之養果、
乾燥之精巧、

郵便はがき
東京市本郷区[illegible]
田中芳男様

乾蜜果之評

西洋之蜜果、品…
乾製之精巧、将…
送伊勢四日市市 行方庄助氏
大正三年九月十五日 田中芳…
以白蜜果葉多缺刻恰似楮葉
不似無花果葉茲漆其搨寫図
示其形状云尓

郵便はかき

東京市本郷区[illegible]
金助町七十二
田中芳男様

大正三年九月十五日
四日市市浜町
行方庄助

遞信省發行　印刷局製造

先[illegible]
[illegible]
[illegible]
ノ下 平素心[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乾蜜果之評

西洋之蜜果、品質固優良、
乾製之精巧、将来最有望、

越伊勢四日市市　行方庄助氏　新製之乾果
大正三年九月十五日　田中芳男

以白蜜果葉多缺刻恰似槲葉
不似無花果葉　茲ニ其搨写図
示其形状云尓

拝復　昨日ハ白蜜果 [illegible]
以 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
先ハ [illegible]
艸々不備

大正三年十二月　上野公園内の池

園内無花果ノ一本ヨリ　無花果樹ニ就

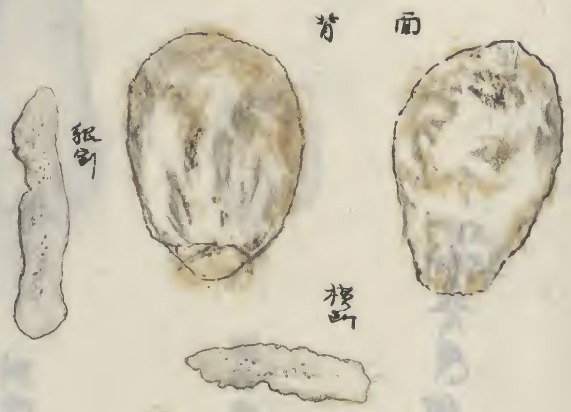
結晶無花果ハ多く生ズ

此果ハ三角形ニシテ　緑色　稍黄青ナリ

内部ハ空虚ニシテ　種子多シ　図ノ如ク

其ノ中ニハ　高サ大小アリ　色薄ク

細く密生す



烏帽子形 園梅

大正三年甲寅 大崎ニ
民家印ニ於テ園梅ト云フ
形ハ純尖長楕形ニテ擬ヘ
烏帽子ニ 紅色ヲ呈スル
既ニ熟ス
大サハ四分乃至五分

田中芳男閲寫之

圓苺

沽屋國ゟ產

やようしんせし

大黒山ゟ秋田ゟ產

どゞかん　えし

呂宋手園向大户

右両種ハ鬼菌怒胡囲なと
菌ト同ジ其壊ノ手今年
内閣ノトクトハ之一ナ
近年変シテ黄ハ多ク
変シテ紅紫ヲ交ル柄
直ニ且多緑ナ実ヲ
着ケ其形ハ市君状
又宝盛状モ子変化シテタクサンヲ両今ノ趣ヲ...
取リ盛ニ之ノミ

帯ノ毛ヲ干出テ
茎ハ長ク藍色ニシテ
多クミユル
古ヨリノ義ハ両ニ
奥山ニ生ジテ白色
ノ...
奥山方ヨリ
中ニ見ル之ヲ
為義トス

東京大学総合図書館